

市町村提案型事業の評価 に対する意見の集約結果

ぐんま緑の県民税評価検証委員会

市町村提案型事業

「市町提案型事業」は平成 26 年度からスタートした「ぐんま緑の県民基金事業」の一つです。

5 つの補助メニューにより、市町村や地域の皆様が行う森林整備などのボランティア活動を支援しています。

5 つの補助メニュー

I. 荒廃した里山・平地林の整備

①地域活動推進（地域住民やNPO・ボランティア団体が行う事業）

- 1) 整備：伐倒等の整備に対する補助
- 2) 苗木購入：高木性苗木の購入に対する補助
- 3) 管理：刈払い等に対する補助

②市町村による地域支援

- 1) 困難地整備支援：住民等では整備が困難である箇所の整備に対する補助
- 2) 刈払機、粉碎機の購入：本事業に取り組む住民等に貸与するために市町村が保守管理する機器の購入に対する補助

II. 貴重な自然環境の保護・保全

①活動支援：県動植物レッドリストで野生絶滅及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種が生息している地域の保護・保全活動に対する補助

②付帯施設の整備：上記の活動に必要と認められる施設整備に対する補助

III. 森林環境教育・普及啓発

①森林環境教育：児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動に対する補助

②普及啓発：森林の機能や重要性について普及啓発を図る事業に対する補助

IV. 森林の公有林化

①水源地域森林の公有林化：市町村による水源地域の森林の公有林化に対する補助

②平地林の公有林化：市町村による平地林の公有林化・造成に対する補助

V. 独自提案事業

ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、「ぐんま緑の県民税評価検証委員会」の意見聴取を受けた市町村が実施する事業に対する補助

市町村提案型事業の評価について

市町村提案型事業では、事業実施による効果検証を行うため第三者機関である「ぐんま緑の県民税評価検証委員会」に、令和7年度第2回評価検証委員会において報告した以下のアンケートをもとに評価していただきました。

アンケートについて

1. 種類

(1) 実績調査書

事業を実施した年度ごとに、事業を実施した団体に対して行うアンケートで、事業が採択された計画どおりに実施されたかを尋ねました。

(2) 効果調査書（公共性と効果の可視化）

事業実施後の3年間、市町村に対して行うアンケートで、公共性の判断のために事業の効果が地域に対して利益があったか、効果の可視化により事業の波及効果があったかを尋ねました。

2. 対象事業

実施した事業に対して、実績及び効果を判定するため、開始から3年経過した事業を対象としました（今回は令和4年度開始事業）。

3. 集約方法

アンケートは点数評価の（5段階評価と3段階評価）合計により、A判定、B判定、C判定に分類すると共に、自由に記載できるコメント部分を設け、判定因子としていました。

A判定：取組が特に優れており、模範となり得る

B判定：現状の取組が充分である

C判定：現状の取組には課題があり、改善が必要

令和４年度開始 市町村提案型事業の評価（事業者・市町村アンケート）

事業名	箇所数	アンケート結果による判定					備考
		内訳	A	B	C	未回答	
里	27	箇所数	21	6	0	0	
		構成比%	78%	22%	0%	0%	
自	2	箇所数	1	1	0	0	
		構成比%	50%	50%	－	－	
教	1	箇所数	1	0	0	0	
		構成比%	100%	0%	0%	0%	
独	1	箇所数	1				
		構成比%	100%	0%	0%	0%	
合 計	31	箇所数	24	7	0	0	
		構成比%	77%	23%	0%	0%	

※事業名

里：荒廃した里山・平地林の整備

自：貴重な自然環境の保護・保全

教：森林環境教育・普及啓発

独：独自提案事業

市町村提案型事業【総括評価】

・市町村による事業評価アンケートの結果をみると A が多く、B の評価は荒廃した里山・平地林についての評価に見られる。高齢化による事業の管理継続の難しさが表れていると推察され高齢化は大きな課題である。

しかし、地域住民の安全安心の生活環境整備や獣害対策などの身近な問題解決のために緑の県民税を有効利用されていると評価できる。

・事業実施後の維持管理が高齢化により難しいという課題は変わらないが、気候変動による自然災害や温暖化に対する県民の意識が高くまってきた中、森林に対する県民の意識も変化してきている。特に若い世代が森に触れるアプローチを増やす事で森林との多様な関わり方を作り出すことは可能ではないか。

・市町村提案型については、今後もニーズは高いと思われるが、予算が市町村提案型に偏らないような方策を早めに検討しておく方が良い。例えば、大部分が採択されるとしても、ある程度の仮の順位付けをしておくことが良いかもしれない。例えば A, B, C, D, E のようにランク付けをしておくなど、そのランクに応じて予算配分を 100%, 90%, 80%, …、のようなやり方もいかがだろうか。

・事業成果と課題を科学的かつ構造的に評価検証できる体制が整っていると考える。事業についてアンケートで成果や効果を定量・定性評価し、本委員会の意見聴取を経て多角的に検証している。

・事業の具体的な成果、課題を評価しながら、予算の使途・効果性の明確化を図っている中で、県民ニーズに対し高い対応力があると考え。また、評価結果を次年度以降に反映する機能も有しているため、継続的な改善サイクルが構築されていると感じる。

・県民のニーズに応え、信頼性を担保するために、各地域の実情に即した市町村提案型事業を支援し、自治体・地域住民の主体性を尊重した運営を今後も実現してもらいたい。

・複数年にわたる事業運営においては、活動のマンネリ化や担い手不足といった課題も想定されるため、次世代の担い手確保・育成に配慮した仕組みづくりが望まれる。

- ・全県下で事業が実施され、地域に合わせた様々な取り組みが評価できる。
- ・クビアカツヤカミキリによる被害が拡大しているため、薬剤の樹幹注入以外の方法も併用してはどうか。また、サクラ以外の樹種も被害対象木として加えてもよいのではないか。
- ・「荒廃した里山・平地林についての評価」「森林環境教育・普及啓発についての評価」「貴重な自然環境の保護・保全についての評価」「独自提案事業についての評価」のすべてにおいて高く評価されており、緑の県民税が有効に活用されていることが伺える。
- ・今後の課題は各市町村があげているように、高齢化による担い手不足のため整備後の管理継続に不安があること、業務委託の費用が高額になっていくこと等だが、社会情勢を考えるとすぐに解決するのは難しい問題だと思う。外国人材の雇用やAIによる重機の無人化なども視野に入れて、対策を講じていく必要があると思う。
- ・各市町村の取り組みをお互いに共有し参考にしながら、今後も緑の県民基金が有効活用に活用されていくことを望む。

荒廃した里山・平地林についての評価

- ・緑の県民税が有効に活用され、高齢化が進む地域で管理できずに荒廃していく里山や平地林の整備が行われ住民生活の安全安心な環境づくりや鳥獣害対策になっていることは大いに評価できる。
- ・事業評価アンケートの課題にも多く見られるように、管理団体の高齢化によって管理維持が難しい状況が続いているため、地域住民に関心を持ってもらい住民参化を促し世代交代を進めたいところである。
そのためにも緑の県民税による事業が地域でどのような活用されているかを多くの方に知っていただくことが必要だと思う。
- ・環境整備が行われ、それぞれの地域で成果があったと思う。

・事業の内容として面積的には管理が多いが、それがわかるような資料をつけた方が良いと思われる。森林、竹林、管理と3つの事業に分けているので、それぞれの程度の予算配分になっているか、また本来の目的の里山平地林の整備として妥当なのかと言うことの検証が必要だと思われる。

・本施策は、実施主体としての地域住民、自治体にとって成果が見えやすく、税の意義を実感できる事業である。

・森林等を整備した後の維持継続力と技術・体制面の補強が要であるが、整備後の維持に関して、多くの自治体が「管理団体の高齢化」を指摘しており、担い手の継続的な担保が必要だと考える。

・荒廃里山の整備は、単に獣害や倒木の抑制による生活環境の安心安全の貢献に止まらず、住民や自治体、ボランティアが協働することで地域の連帯感や森林管理意識の向上に繋がるため、整備→維持→地域活性化という好循環が生まれることを期待したい。

・各市町村の評価は概ね高く、成果も上がっているのもとても良いと思う。整備後の状態を維持するために、定期的な打ち合わせで効率的な施業や補助金の活用方法を模索して成果を上げたり、業務委託を実施することで適正な管理を可能にしたり、重点的に行う箇所を決めることで維持管理しやすくする工夫など、他に市町村の参考になるような取り組みもあるので、それぞれの具体的な内容を共有できる場があると良いと思う。

森林環境教育・普及啓発 についての評価

・事業はみどり市で行われた公民館事業の1件のみであり、森林と県民の関わりを増やし森林環境教育の普及啓発活動に更に力を入れて欲しい。

・森林内での様々な体験活動で森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関心を深め人としての感性を養うために森林環境教育は重要であり、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点からも群馬県の各地域で取り組みが進む事を期待したい。

・学校等を中心とした森林教育が進んでいると思われるが、もっともっと進めて欲しい。特に小学校や幼児教育における森林教育の役割は重要であることを市町村が理解できるような仕組みになると良いと思っている。

・多様な体験プログラムと専門家による支援体制により、森林への理解と関心を高める点で、高い効果が期待できる施策である。

・イベント中止が日常化していたコロナ対策下においても、森林を身近に体験できる機会があったのは、大きな成果だと強く感じる。

・昨今では、気温上昇による熱中症が懸念されているため、ICT 活用など屋内でも森林教育ができる機会醸成が求められる。

・親子で充実した時間を過ごせたと思う。

・みどり市の親子つり教室についての評価が記載されていましたが、前年度に比べて参加者が減少した原因がきちんと考察され、今後の実施に向けて改善策の検討に繋がっている点が良いと思った。

貴重な自然環境の保護・保全 についての評価

・貴重な自然環境の保護・保全活動を地域づくりの一環として、小学校とも連携して活動が続けている事は素晴らしい。他地域でも参考にできるとではないか。

・本来は、もっと貴重な自然環境が存在すると思われる。事業が少ないので、もっと積極的に県が関与して進めても良いのではないかと思います。

・他施策と比較して事業件数は少ないが、絶滅危惧種、希少植物の保全という非常に意義深い成果を出している事業である。

・小学生も移植作業を行うなど、良い取組である。

・保護活動を目的に自治体、市民団体や教育機関が連携して継続的な保全活動を行うものであり、その公益性・専門性の両面において高く評価できる取組である。また、単なる保護活動にとどまらず、観察会や講座、学校連携などを通じて地域住民の参画を促進している。こうした住民主体型の施策は、単発で終わらず、地域に保全意識を根付かせる基盤となりうるため、続ける価値のある優良施策である。

・フジバカマが絶滅の恐れがある植物になっていることは初めて知った。
そういえば、家の庭に以前は咲いていたが、昨年の秋には見られなかった。
いつの間にか生育地が少なくなってしまう植物はたくさんあるが、安中市の取り組みのように、地域が絶滅危惧種を保護保全する地道な活動が継続的に行われることで、守られる植物が増えていくと良いと思う。

独自提案型事業 についての評価

・クビアカツヤカミキリの被害は東部から中部西部へと広がってきている。
緑の県民税の活用で早期発見・早期対策に繋がることは大変望ましい。

・出来る限り市町村提案型になるような提案があると良いと思う。一方で民間が協力できるような仕組みを、この独自提案型事業の中にも積極的に提案されると良い。

・令和6年度の事業では、県内14市町村がクビアカツヤカミキリの防除・対策に重点的に取り組んだ点が極めて印象的である。クビアカは近年、サクラなどのバラ科樹木を中止に壊滅的な被害を与える特定外来生物として、県内で被害が拡大しており、緊急性と広域性を併せ持つ重要な課題である。多くの市町村が樹木のへの薬剤の樹幹注入を行っており、被害実態を可視化しつつ、実践的な防除措置が講じられている。これは、住民の安全性・快適性の確保にも寄与しており公共性・実効性の両面で意義が深く、初期対応を可能とする重要な成果である。

・十分な被害防止策を講じるため、被害対象木をサクラに限らず、その他樹種も認めてはどうか。

・クビアカツヤカミキリの被害拡大にある程度の成果を上げながらも、対象木がサクラに限られていることで、ウメやモモ等他の被害対象木について対策ができない点が課題に挙げられていたが、各地にクビアカツヤカミキリの被害が広がっていることを考えると、他の対象木まで対応していくのは、予算的に厳しい状況なのだろうと思った。

その他意見

・各市町村において多様な事業が実施され、地域の実情に即した成果が多く見られた。今後も事業の継続性・公平性を確保しつつ、地域間連携や成果の見える化を進めていくことが望まれる。